W校中高等部だより

球技大会特集

平成二十九(二〇一七)年五月二十日

ニューヨーク補習授業校W校

今年度もW校中高等部の球技大会が五月二十日に盛大に行われました。競技中に雨が降り出し、校庭の状態が心配されましたが、小雨の中、予定通りサッカーも行われ、球技大会に参加した中高等部の生徒たちは、さわやかな汗を流しました。

また、生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げました。

球技大会は、中等部二年の山野愛実さんと佐々木星乃さんの元気の良い選手宣誓を合図に、男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボール・サッカーと四競技を行いました。また、最後は紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行いました。自分の得意な種目だけでなく、各種目、生徒たちは盛り上がって楽しみました。



二週間前からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チーム名確認ゲーム、名前覚えゲーム、チーム練習など)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた団結・協力・相互理解、そして、諦めない心。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの頼もしい姿、普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。



総合成績

一位:Fチーム

二位:Cチーム

三位:Gチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生　鹿内君、武田君、小野君、ショベ君、阿部さん、岩佐さん、グレイさん

競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために来校し、ジムのバレーコート、バスケットコート、ドッジボールコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、陰でこの大会を支えてくれた保護者会ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

球技大会

中等部一年一組　水野　大直

太陽がぎらぎら光った中、僕たちは球技大会を始めました。僕は、Hチームでした。キャプテンの親分と仲間たちと一緒に、サッカー、ドッジボール、バレーボール、そしてバスケットボールをやろうとしていました。

サッカーでは、みんながつっ立ったままなので、みんなダンゴになっていました。僕は怒って仲間のふわふわくんにパスをしました。ふわふわくんは、キーパーの弱いところに狙いを定めゴール！僕たちは4対1で勝ちました。

次はドッジボールでした。僕たちは力いっぱいボールを投げました。だが、キャノンみたいなボールを投げる高2の人が、ボン！ボン！ボン！と僕たちを倒していきました。その結果、僕たちは負けました。

バレーボールは、あんまりおもしろくなかったです。ネットは高いし、ボールは大きいし、まったくボールには触れなかったです。

バスケットボールでは、すごく大きな子のチームと戦いました。すごく厳しい戦いでしたが、僕は2回ほどシュートを決めました。

初めての球技大会はすごく楽しかったです。また来年もやりたいです。



球技大会を終えて

中等部一年一組　波多野　まなみ

五月二十日、球技大会当日。数学の授業が終わり、私は友達と一緒にお弁当を持ってカフェテリアへ行きました。班のテーブルに着くと、前の週にいなかった先ぱいを目にしました。その先ぱいは、昼食の時間ずっと下級生に話しかけたり、作戦を立てたりしてくれました。私は、そんな先ぱいがかっこいいと思いました。

私の班の最初の種目はバレーボールでした。私がサーブに失敗すると、先ぱい方が私をはげましてくれました。先ぱい方のはげましのおかげで、二回目のサーブは成功しました。

次の種目はバスケットボールでした。背が高い先ぱい方が何とかしてくれるだろう、と思っていた私は、最初は特に何もしていませんでした。ところが、私は先ぱい方から何度もパスをもらいました。私が投げたボールが入らなかったり、相手の班の人に取られたりしても、先ぱい方はいつも私をはげましてくれました。



残りの二種目も、バレーボールやバスケットボールの時と同じように、班の中で声をかけ、はげまし合いました。また、最後の全校でやる大ドッジボールの時、私の班の先ぱい方が活やくしていてかっこよかったです。

二時間くらいしかなかったけど、球技大会は先ぱい方と仲を深めるいい機会だったと思います。実際に、私は先ぱい方と仲良くなれた気がします。

私は、最初は球技大会に出るのが不安でした。しかし、やさしい先ぱい方のおかげで楽しく過ごすことができて良かったです。これからも、先ぱい方のことを見習っていきたいと思います。そして、いつか私が先ぱい方の学年になった時に、後はいにやさしくできたらいいです。

球技大会

中等部二年一組　柴田　紗良

私は、中学二年生が始まる前から、球技大会の事を心配していました。「去年のように体操の活動と重なって、出られないのではないか。」「またケガをし、今年も出られないかもしれない。」このような事をずっと考えていまし

た。私は、去年は体操でケガをし、出られなかったので、みんなが楽しんでいるのを見て、とても悲しかったのです。今年は、他の行事が何も重ならなかったので、昨年の期待とのダブルで、当日は興奮しすぎて、授業に集中できませんでした。

私はサッカーとバレーボールをとても楽しみにしていました。バレーボールの練習はうまくいっていたけれど、本番は負けてしまってくやしかったです。サッカーでは中1の男子がとてもうまく、圧倒されました。

今まで知らなかった他の学年の生徒たちとも仲良くなり、新しい発見がいろいろとありました。球技大会は勝ち負けではなく、みんなが仲良くなる大切な日だと思います。

まだ、球技大会が終わったばかりだけれど、私は来年の大会が楽しみです。また、新しく入って来る中学一年生の子たちと仲良くなるのも待ち遠しいです。

中学二年の球技大会

中等部二年一組　松下　愛理



今年の五月二十日は普通にやって来た。この日は、私にとっての二度目の球技大会だった。今回は昨年みたいに初めてではなかったし、流れや手順もわかっていたので、緊張はしなかった。

スポーツがあまり得意ではない私は競技にはそれほど貢献ができなかった。その分、私と同様で運動が不得意と思われる友人と一緒に応援に力を入れた。特にバスケットボールでは、あまりの激しさで、私は固まってしまい、ほぼ何もできなかった。その分を取り返すため、試合後半で私は友人とたくさん応援した。結果、応援が功を奏してか、バスケットボールは勝つことができた。私がここで改めて思ったことは、応援は球技に参加するのと同じくらい大事だ、ということだ。

得意とまではいかないけれど、他のスポーツよりはできると自分で思う競技はバレーボールだ。「せめてすこしでも活躍できるようにしよう」と思い、ボールから目を離さないで出来ることはやった。苦手なサーブも集中したら成功したし、パスやヒットも上手くできた。結果、相手のチームとはかなりの差で勝った。このバレーボールの点数のおかげで、最終的に私のチームは二位になった。



昨年とは一味違った球技大会。やれるだけやった分、私のチームが二位になれたのはすごく達成感があり、うれしいことだった。ただ、昨年も二位で今年も二位というのは少し悔しいものだ。そう思うと、来年こそ一位になれるように、今度はスポーツの練習をがんばろうと思っている。

球技大会

中等部二年二組　宮崎崎真弥

今日は、私の二回目の球技大会。今年は頑張るぞと意気込み、去年の恐怖と微妙な気持ちであふれた感情を書き換えるぐらいの楽しさを私は待っていました。

私には高等部2年生の兄がいます。彼は球技大会をいつも全力で楽しんでいて、毎年汗だくになって帰ってきます。その彼の口癖が、「また次がある、

何も終わっていない、まだチャンスはあるはずだ」。そして私はその口癖に対して疑問を持っていました。彼はどうしてそこまで頑張れるのか？一体何を感じたのだろうか、何を思ったのだろうか、いい始めてしまったらきりがない。今年こそはそれを理解できるチャンスではないかと思っていました。

グループ分けが書かれている表をのぞき込み、自分の名前を探していると隣でもうすでに見つけている人々が落ち込んでいたり、大歓喜していたりしました。そして見つけた、私のグループ、「H」。知り合いがクラスメイト一人のみ、あとは全員知らない先輩方、一瞬にして自分の中から期待と根気が崩れ散った音がしました。

初めての面会の時、私はチームの顔を覚えられるか心配で仕方がなかった。私のチームは、高等部2年の宮部先輩、通称親分、清水先輩、通称先輩；中等部3年の男の子（山岸君）、通称ふわふわ；中等部2年の山野さん、中村さん、那須さん、通称眼鏡トリオ；中等部1年の男の子（水野君）、通称ウルトラマン、そして最後に私は通称子分としてグループに参加していました。



私たちのチームは常に和気あいあいとしていて、とても楽しくてゲーム参加中にもふざけたりしていました。一番面白かったのは最年少のウルトラマン。本気なのかふざけているのかわからないほど奇声をあげ、暴れました。彼は私たちにとても勇気や熱意を与えてくれました。宮部先輩と清水先輩、そして私でウルトラマンに「落ち着け」と叫んでいたことをよく記憶に残っています。サッカーでのふわふわくんとウルトラマンの活躍、通称眼鏡トリオの山野さん、中村さん、那須さんの落ち着いた考えかたやサポートをしてくれたこと、そして先輩方の引っ張ってくれるリーダー力に、チームメンバーに恵まれたことを感じました。

最後には結局勝てはしませんでしたが、感情を書き換えるぐらいの楽しさはありました。本当にチームメイトには感謝していますしこの大会もいつまでもいい思い出になると思います。私は今年、今まで以上に球技大会を好きになりました。

球技大会

中等部二年二組　竹内　琴菜

私は今年球技大会に出場して、とても楽しかったです。なぜかというと、上級生や下級生と一緒に一生懸命戦えたからです。そして、自分達が上級生になったことで、少し新しい気分になりました。

上級生になるということは、とても大切なことだと思います。これからたくさんの下級生にこの学校はどのようになっているのかを教えなければなりません。また、私達も同様にたくさんの上級生からいろいろなことを教えてもらい学んでいきます。

私が球技大会で気付いたことは、リーダーシップとチーム全員で努力することの大切さです。私のチームリーダーは、チーム全体をまとめ、優しく褒めてくれました。また、私達のチームは、誰か一人だけが頑張るのではなく、一人一人が一生懸命頑張って戦っていました。このようにすることで立派なチームが出来るんだと思いました。だから私達は二位に入賞できたのだと思います。

今年の球技大会は、とてもパワフルで楽しかったです。そして、チームワークの大切さを知ることが出来ました。



一致団結できた球技大会

中等部三年一組　榎島　蓮太朗

今年は私の初めての球技大会でした。そのため、チームが学年縦割りということもあり、かなり緊張していました。そして案の定、全くといっても良い程チームメンバーの名前さえ覚えられぬまま、球技大会が始まりました。

球技大会最初の競技はドッジボールでした。ドッジボールはほぼ逃げることしか出来ず、それでも球に当たり、前半は負けてしまいました。しかし、

後半はチームのメンバーがとても強く、何もせずに逆転勝ちしました。次のバレーボールは、サーブのチャンスが二回あったにも関わらず、自分のサーブはすべて天上に吸い込まれていき相手に得点を入れてしまいました。しかし後半は上手くサーブすることができ、バレーボールも勝つことができました。その次はサッカーをしました。サッカーは球技大会の競技の中で最も得意なスポーツだったのですが、日頃から運動していなかったがために一瞬で体力が尽き、ゴールキーパーに代わってもらうもチームに全く貢献できないまま最後にはゴールまで入れられてしまい、そのまま負けてしまいました。最後の競技はバスケットボールでした。バスケットボールは私の最も苦手なスポーツです。そのため、一番バスケで足を引っ張ってしまうことを心配していたのですが、今回もまたチームが強く、バスケも勝つことができました。そして三勝したので、大会で二位になれました。

二位になったことはとても嬉しかったのですが、それより嬉しかったことはチームの人と競技中に話せたことです。最初は全く話せなかった私も、試合で失敗したら「ドンマイ」とか言ってもらったり、少し良いプレーをしたら褒めてもらったりし、それから勇気が出て自ら話せるようになりました。球技大会で私は、チームメイトと仲良くなり、チームとして一致団結することができたと思っています。



忘れないようにとたんすの上に広げておいたクラスTシャツの事が一番初めに浮かんだ。「チュー3」と書かれた青いシャツを見て私は中等部最高学年としての誇らしさと、あと二年だけなのか、という悲しみが心に広がった。いけない、今日は楽しい日なんだから。気持ちを明るくしながら私はシャツを着た。

大会直前の昼食の光景が次によみがえった。だがよみがえったのは友達とした話、何を食べたかではなく、チームのメンバーが一歩もテーブルから「逃げなかった」という事だ。球技大会は唯一チームが学年縦割りのイベントだ。当然一クラスの人数が少ないので同学年の友達はおらず、じゃあちょっと他のテーブルに会いに行こうと考えるのは普通だ。実際に自分も過去に何回かやっている。しかし今年の私のチームは誰もそういった行動を起こさなかった。先輩はもちろんだが、私は後輩たちに感心した、と言ったら偉そうに聞こえるか。カフェテリアを見渡すと人が抜けているテーブルが多く、中には誰もいないテーブルもあった。だが私のチームは全員いる、そして学年も先輩後輩も関係なく喋っている。当たり前のことをしているだけの後輩たちに私は不思議な感動を覚えた。私は、今年はチームワークは大丈夫だなと安心した。

悲しいことにバレーボール以外では一点も貢献できなかった私だが、今年は後輩の事を初めて「先輩」という視点から見ることが出来たのかもしれない。去年は「後輩が出来たから良いところを見せなくては」と思っていた。だが今年は自分も頑張るうえに、チームメイトが点を決めたらハイファイブ、ミスをしたら励ましたいと思った。高等部の先輩たちは「先輩」というと距離を感じるから名前呼びでいいよと言ってくれたり、バスケの試合でボールをあまりもらえていない中一の子にパスをだしてシュートしてみてと応援したりと、自分にはまだまだ全然出来ていない気遣いや優しさを見せてくれた。後輩に見せたいのはたくさん点を決めて活躍する完璧な理想形ではなく、時にミスをしてもチームを掛け声や励ましで支えてくれる、友達みたいな存在だと気づいた。中三が何を、と思われる言葉だが「結果」ではなく、「チーム」の方を見られた球技大会だった。

球技大会

中等部三年　豊村　真帆

何を書けばいいのか全く分からない。

毎年書かされている感想文だが中三になった今年は題材が何も頭に浮かばなかった。中一では初体験、中二では先輩としての大会、中三ではなにもアイデアが出てこない。いやいやそんなはずはない。そう思って大会当日の記憶を朝から振り返った。

球技大会

高等部一年　クリーグ　イザベル

今年は高等部での初めての球技大会でした。

中等部とはちがって、高等部は中学一年や二年生たちの責任をもつので、私はちょっと緊張しました。初めて私の「D」チームに会った時は、私がグループリーダーだったので、みんなの自己紹介をさせなければならなかったのです。昔、中等部の時はリーダーを見ていると安心したけれど、今度は私がリーダーだったので、みんなが大丈夫で安心できるようにがんばりました。

当日は、高二の二人が来たので、私はちょっと安心しました。最初はバレーボールをやりました。前半も後半も負けたけれど、楽しかったので良かったです。最初のゲームだったけれど、だんだん慣れることができて、チームのみんなが話し始めました。次はドッジボールでした。私はドッジボールが下手なので、外野になって周りのボールを拾いました。私のチームはドッジボールに勝ちました。



その後はバスケットボールをしました。バスケはとても激しかったです。同点で終わり、サッカーの試合に進みました。サッカーは、私の中一の弟のチームとやりました。今年は私の弟の初めての球技大会で、試合で一緒にサッカーができて、弟も私もうれしかったです。サッカーは五対一で負けました。Dチームは総合で勝てなかったけれど、下級生たちをお姉さんのように見てあげられて、リーダーになれたことが一番楽しかったです。

球技大会

高等部二年　土井　英奈

今回行われた球技大会は私にとって最初で最後の経験でした。最初の顔合わせの時、この行事について知らないことも多く、うまく最高学年として下級生のみんなを引っ張っていけるか不安でした。それに加え、私は高等部の人以外とはほぼ面識がなく、人見知りの私は緊張と不安で頭がいっぱいでした。実際、私のチームメイトと顔合わせした時、みんなも緊張していたのか沈黙が長く続き微妙な雰囲気になることがありました。しかし、これでは球技大会でチームとして戦えないと思い、私からいろいろと下級生に話を振ってみました。だんだん会話していくにつれ、みんなの緊張がほぐれてきたのか下級生の方から質問などしてくれて嬉しかったです。まだ会話はぎこちなかったけれど、少し心を許せてくれた気がしてほっとしました。



次の週の球技大会では、私たちのチームは四戦中、一勝しかできませんでした。それでも、試合中はパスを呼んだり、積極的にみんな参加してくれたりして、みんなとても楽しそうでした。負けた後も悔しかったことや反省を話したり、チーム内の交流が増えて、どんどんみんなと試合していくのが楽しくなっていきました。チーム以外の赤組対白組のドッジボールもとても激しく、ボールが速くて怖かったけれどなんとか活躍できて試合後はすごく達成感がありました。個人的にしばらく運動してなかったので、この球技大会でいい汗かいて楽しめました。

スポーツを通して他学年と交流することができて、より生徒会の団結が強まったのではないかと思います。



五年間の球技大会

高等部二年　福島　大朗

僕が初めて補習校の中高等部の行事として参加したのが球技大会でした。進学して間もないと時に、早速上級生たちとチームを組んで、多彩なスポーツをできるなんて、なんて良い企画なのだと感じました。最初は人見知りでほとんど会話をしなかった覚えがあります、しかし、それはもう中一なら、誰もが経験したことでしょう。それが今、五年もたち、最高学年としてチームのリーダーを務める立場になりました。自分が中心にならなければいけないという自覚は凄くありました。もう次はない事を踏まえた上で、悔いの無い大会にしようと思いました。その中でも、最も心掛けたことは良い先輩でいることでした。何度もふざけた行為をみんなの前でしてきましたが、やはりみんなが怖がらず、仲良く出来る先輩に僕はなりたかったです。上下関係が嫌いな僕が今だけ先輩ずらするのはどうかと思いますが、僕のことを見てリーダーっと思ってくれたチームメートたちに、嫌な思いだけはさせたくありませんでした。それが今現在どう思われているか分かりませんが、最終的に振り返ってよい上級生でいられたのなら、僕は嬉しいです。日本で生活をほぼしていないため、この様に先輩としてリーダーシップを持てたことは、凄い良い経験でした。球技大会での結果は一勝三敗でしたが、仲良くは慣れたと思います。来年は審判として補習校に戻って、今の高1がリーダーとしてどこまでやれるのかを楽しみに見てみたいです。












RAMS














RAMS



